

頑張る地方応援プログラム

都道府県名	北海道	市町村名	中川町
プロジェクト名	【 中川らしい楽しみを実感する 新たな活力の創出プロジェクト 】		新規・継続の 区分 継続
プロジェクトの 目的、概要及び 具体的な成果目 標	<p>(目的、概要) 中川らしい楽しみ、中川に住む喜びや誇りを実感できるまちづくりを目指し、地域資源を活かした新たな中川文化の創造をすすめるため、閉校した学校施設などを目的転用し、有効利用を図る。 また、この施設を拠点とし、恵まれた自然と地域資源を活かした観光資源を活用し、農村景観やサブ拠点施設の充実を図り、体験型・滞在型観光を推進し、観光入込人口や交流人口の拡大を図る。 (具体的な成果目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光入込人口 H18: 111,400 人 H19: 113,600 人 H20: 92,900 人 H21成果目標 114,000 人 ・中川町エコミュージアムセンター入館者数 H18: 4,278 人 H19: 4,421 人 H20: 4,547 人 H21成果目標 4,600 人 		
プロジェクトの 期間	平成19年度～平成21年度	政策分野の分類 (~)	地域経営改革プロジェクト
住民への公表の 方法(ホームページ アドレス等)	中川町ホームページ (http://www.town.nakagawa.hokkaido.jp/nakagawa-ganba.prog.htm)		
プロジェクトを構成する具体の事業・施策			
名称	事業概要	総事業費 (単位:千円) (うちH21事業費)	
中川町エコミュージアムセンター 事業	本町には白亜紀の地層(約1億～7千万年前)が広く分布し、明治期にアンモナイトの産出が報告されて以来、多くの研究者・学生そして愛好家が訪れ、「アンモナイトのまち」として知られています。1973年と1991年にはクビナガリウ化石が相次いで発見され、後者は全身骨格を復元しています。化石をはじめとする町内に存在する多くの有形・無形の自然・文化・生活財産を地域特性・財産を地域の魅力としてとらえ、町全体を「博物館」とみなし、町民と協働してまちづくりを進めていく「中川エコミュージアム構想」を推進しています。自然誌博物館・宿泊型体験・研修複合施設の「中川町エコミュージアムセンター」は、その中枢施設です。特にアンモナイトをはじめとする化石については、町内の研究家の方々の手によって恐竜化石発見、新種のイカ化石、新種のアンモナイト化石など、世界的にもすばらしい発見がされている。	23,074 (8,252)	
斉藤茂吉 短歌 フェスティバル運 営事業	昭和7年、近代短歌の巨匠齋藤茂吉は弟の高橋四郎兵衛を伴い、共和で北海道拓殖医をしていた兄の富太郎を訪ね、16年ぶりに三兄弟の絆を深めあった由縁と、当地で47首の短歌を詠んだ文学的史跡を後世に伝える目的で記念歌碑を建立したが、短歌の心を広め守っていくために、平成6年から「齋藤茂吉記念中川町短歌フェスティバル」を開催している。	3,596 (1,143)	
中川町ふるさと 学習プロジェクト 事業	中央公民館・エコミュージアムセンター・学校・地域住民・各種団体からなるプロジェクトチームを結成し、地域特性・地域財産を教材とした幼小中高一貫の「ふるさと学習」の教育課程を策定し、幼小中高の教科教育・総合的な学習の中で地域を学ぶ「ふるさと学習」が継続される体制を構築する。また、地域住民が自ら地域講師となって地域特性・地域財産を教えることによって、町ぐるみで連携した生涯学習体制を構築する。	1,893 (708)	
総 計		28,563 (10,103)	
その他特記事項			

頑張る地方応援プログラム

都道府県名	北海道	市町村名	中川町
プロジェクト名	【暮らしやすさを実感する子育て支援プロジェクト】		新規・継続の区分
プロジェクトの目的、概要及び具体的な成果目標	<p>(目的、概要) 暮らしやすさを実感するまちづくりを目指し、少子高齢化が進む中、子供たちの健やかな成長を支援するため、幼児センター・子育て支援センターの開設や老人クラブの通学時見守り活動など、地域全体で子供の成長を見守り、安心して子供を生み育てていくことができる環境づくりを図る。</p> <p>(具体的な成果目標)</p> <ul style="list-style-type: none"> 人口 H18：2,053人、0～14才：151人(7%)、15～64才：1,234人(60%)、65才以上：668人(33%) H19：1,964人、0～14才：204人(10%)、15～64才：1,106人(56%)、65才以上：654人(34%) H20：1,936人、0～14才：195人(10%)、15～64才：1,080人(56%)、65才以上：661人(34%) H21：1,890人、0～14才：179人(10%)、15～64才：1,043人(55%)、65才以上：668人(35%) 出生率 H18：5.5% H19：6.6% H20：6.7% * H21成果目標6.8% 		
プロジェクトの期間	平成19年度～平成21年度	政策分野の分類 ()	少子化対策プロジェクト
住民への公表の方法 (ホームページアドレス等)	中川町ホームページ (http://www.town.nakagawa.hokkaido.jp/nakagawa-ganba.prog.htm)		
プロジェクトを構成する具体の事業・施策			
名称	事業概要	総事業費 (単位：千円) (うちH21事業費)	
認定子ども園 幼児センター 事業	<p>北海道認定こども園幼保連携型の認定を受け、町立幼稚園と町立保育所等を一元化し、中川町幼児センターとして運営する。</p> <p>(1) 短時間保育児童(幼稚園)の対象児童については、従来は4歳児からの2年保育だったが3歳児からの3年保育とし、早く集団生活を体験できるようにするとともに、新たに「預かり保育」も実施する。</p> <p>また、中川町幼児センターに通所する3歳以上の児童は、短時間保育時間内は合同保育とする。</p> <p>(2) 長時間保育(保育所)はこれまでどおり保育に欠ける児童を保育する。</p> <p>(3) これまでは、幼稚園は弁当持参、保育所は3歳未満完全給食、3歳以上は副食給食であったが、全員が同じものを一緒に食べる楽しさの体験を目的に全児童完全給食とする。</p>	48,047 (13,846)	
子育て支援事業	<p>地域で子育てを支援する基盤の形成を図るため、子育て家庭の支援活動を専門に担当する地域子育て指導者(保育士)を配置し、子育て相談・親子遊び場の開放・あそびの広場・子育て講演会・子育て講座などを実施し、子育て家庭に対する育児不安等についての相談指導、子育てサークルの育成支援、地域の保育需要に応じた特別保育事業等の積極的な実施・普及促進等を実施することにより、地域の子育て家庭に対する育児支援を行なうことを目的とする。</p>	2,704 (1,690)	
言葉の教室事業	<p>町立小学校に「ことばに障害のある児童」が適切な支援を受け、望ましい学習活動の中で就学できるように通常の学級で留意しながら指導を受けられる通級指導教室「ことばの教室」を設置し、臨時教諭を雇用する。</p>	2,568 (744)	
要保護準要保護 こども就学援助 事業	要保護準要保護世帯に対し、こども就学援助をする。	914 (281)	

地域子ども会 育成協議会運営 事業	子ども達が健やかな成長を遂げるため、保護者と地域が一体となり支援することを目的に学校教育とは異なった各種の事業を展開している。これらの事業を通して、子ども達は多くの体験をし思い出とともに健全な成長を遂げることができるよう支援する。	660 (220)
スクールバス 運行事業	本町は、南北に細長く集落が点在しており、このため中心地まで遠距離にある。しかし、年々人口の高齢化が進み交通手段の確保が益々重要となってきている。このため、医療機関への通院・経済活動の交通手段として、バスの運行委託を行なっている。	43,604 (15,986)
妊婦支援事業	妊産婦が安心して出産できるよう、一般健康診査を行なうほか、定期健診交通費補助、一般健康診査助成を行なう。	1,965 (1,195)
児童福祉事業	児童福祉の推進に関わり、出生祝金、乳幼児医療費助成、ひとり親家庭等医療費助成、児童手当給付、小学校終了前特例給付、障害児母子通園支援を行なう。	18,820 (5,618)
老人クラブ 活動事業	老人クラブの自主的な活動や交流の促進を図る。	3,829 (1,328)
総 計		123,111 (40,908)
その他特記事項		